

市では、様々な分野別人権課題に対応した相談窓口を、それぞれの担当部署・関係機関などで開設しています。誰にも話せず、1人で悩み、苦しんでいませんか？プライバシーには十分配慮していますので、お気軽にご相談ください。

人権に関する市内の主な相談窓口

分野	相談名称・機関	相談内容	相談員	場所	相談日(受付時間)	電話番号
女性	女性相談	女性が直面する問題全般の相談	男女共同参画推進室職員	市役所 市民相談室(2階)	月～金 8:30～17:15	81-4111 (内線)268
	女性のための法律相談(予約制)	夫婦間、セクハラなど女性が直面する問題についての法律相談	弁護士	市役所 市民相談室(2階)	毎月第3火曜日 13:00～16:00 (予約は当月の1日～)	81-4111 (内線)264
	婦人相談	婦人の問題全般	婦人相談員	市役所 社会福祉課(1階)	月・火・木・金 8:30～17:15	81-4111 (内線)469
	女性の人権ホットライン	職場における男女差別やセクハラ・ハラスメント、夫やパートナーからの暴力、ストーカーなどの女性に対するあらゆる人権侵害	人権擁護委員 法務局職員	(専用電話相談)	月～金 8:30～17:15	(全国共通 ナビダイヤル) 0570-070-810
子ども	家庭児童相談	家庭教育上での児童に関する相談	家庭相談員	市役所 子育て支援課(2階)	月・火・木・金 9:00～17:00	81-4111 (内線)498
	教育相談	幼児、小・中学校の児童・生徒に関する教育問題	教育相談員	教育研究所 (スピアセンター学習館7階)	休館日(火曜日など)を除く毎日 9:00～16:00	74-6666
	少年相談	非行・不登校など青少年育成に関する事	少年補導員	少年補導センター (郭町2-53)	月～金 10:00～16:00	78-2014
	西濃子ども相談センター	子育て(虐待)、子どもの発達、不登校やいじめ、非行の相談など	児童相談員	西濃子ども相談センター (禾森町5-1458-10)	(来所相談) 月～金 8:30～17:15 (電話相談) 月～金 8:45～21:00	78-4838 058-276-4152 (フリーダイヤル) 0120-76-1152
	子どもの人権110番	いじめ、体罰、不登校、虐待など子どもをめぐる人権問題	人権擁護委員 (子どもの人権専門委員、法務局職員)	(専用電話相談)	月～金 8:30～17:15	(フリーダイヤル) 0120-007-110
高齢者	地域包括支援センター	高齢者や家庭・地域が抱える福祉・介護などの様々な相談や高齢者虐待に関する事	保健師、社会福祉士などの専門職員	市役所高齢介護課(1階) 総合福祉会館 (馬場町124番地)	月～金 8:30～17:15	(市役所) 82-1166 (総合福祉会館) 77-2255
障がい者	障害者生活支援センター	障がい者や家庭が抱える福祉・介護などの相談や自立・社会参加に関する事	社会福祉士・身障相談員などの専門職員	総合福祉会館 (馬場町124番地)	月～金 8:30～17:15 土・日 9:00～16:00	75-0183
同和問題	人権擁護推進室	同和問題に関する事	人権擁護推進室職員	市役所 人権擁護推進室(1階)	月～金 8:30～17:15	81-4111 (内線)466
外国人	英語・ポルトガル語による相談	日常生活全般の相談	まちづくり推進課職員 ポルトガル語相談員	市役所 まちづくり推進課(2階)	月～金 8:30～17:15	81-4111 (内線)267・269
	中国語・英語による相談	日常生活全般の相談	大垣国際交流協会職員 ポルトガル語相談員	大垣国際交流協会 (スピアセンター学習館2階)	休館日(火曜日など)を除く毎日 8:30～17:15	82-2311
	ポルトガル語による相談				日曜日 9:00～12:00 水・金 9:00～15:00	
HIV感染者等	エイズ相談(エイズ検査)	エイズに関する不安・心配・抗体検査など	保健所職員	西濃保健所 (江崎町422-3:西濃総合庁舎内)	月～金 8:30～17:15 (検査は電話にて事前に要予約)	73-1111 (内線)279
人権全般	人権よろず相談	不当な差別、人権侵害	人権擁護委員	市役所人権擁護推進室	毎月第3金曜日 13:00～16:00	81-4111 (内線)466
				上石津地域事務所	毎月第2土曜日 9:30～11:30	45-3111
				墨俣地域事務所	奇数月第3木曜日 13:00～16:00	62-3111
	人権相談(常設相談所)	不当な差別、人権侵害	人権擁護委員 法務局職員	岐阜地方法務局大垣支局 (丸の内1-19)	月～金 8:30～17:15	78-3347

※相談日は、祝日・年末年始などで休みの場合がありますので、事前に確認のうえお出かけください。

※市外の相談窓口(国・県の機関や民間団体など)については、ホームページに掲載してありますのでご覧ください。

市の人権擁護推進室のホームページをご覧ください

市の人権擁護推進室HPでは、人権施策の取り組みをはじめ、様々な分野の人権関連事業の開催案内、過去に「広報おがき」で掲載した人権関連の記事などをご紹介します。ぜひご覧ください。

(問い合わせ・寄稿先)

〒503-8601 大垣市丸の内2-29 大垣市役所 福祉部人権擁護推進室 まで

TEL: 0584-81-4111 (内線466) FAX: 0584-81-5500 E-mail: jinken@city.ogaki.lg.jp

ホームページのご案内

大垣市役所ホームページ(<http://www.city.ogaki.lg.jp/>)より

各課のご案内 をクリック

福祉部 人権擁護推進室 からお入りください。

人権Letter

No.2
平成21年3月
発行

大垣市 福祉部 人権擁護推進室 〒503-8601 大垣市丸の内2-29
☎0584-81-4111 (内線466) E-mail: jinken@city.ogaki.lg.jp

オバマ大統領から学ぶ人権感覚

大垣市人権のまちづくり懇話会委員長

子安 一徳



オバマ大統領は、就任演説で「つい60年ほど前は、レストランで食事でもさせてもらえなかったかもしれぬ父を持つ男が今、あなた方の前に立っている」と、奴隷制度以来の苛酷な差別の中を生き抜いてきたことを話しました。そして今、大統領という頂点に立ち、人種問題を乗り越えようとして訴えているのです。

オバマ氏は、幼少時代から現存する人種差別を肌で感じながら、アメリカの社会の中で差別を乗り越える生き方を考えたのでしょう。実力、能力が他人より勝り、それが認められれば必ず社会から受け入れられ、差別を超越することができる考えたのです。

彼は猛勉強をして、ハーバード大学の法学部大学院を出ました。実力社会のアメリカの中であって、彼は弁護士になり上院議員となったのです。彼はアメリカ社会の人種差別を、能力、実力を示すことによって、自分の体から発する人種問題を払拭したのです。彼が大統領となって、人種問題が全て一度に解決するとは考えてはいませんが、少しずつ、人種問題に関する考え方が改められていくのではないかと考えているのではないのでしょうか。

私たちの社会の中にもいろいろな差別が生じる問題があります。男女、高齢者、同和問題、外国人、子どもなど、これらから生じる種々の差別問題は、意識しないで行う

蔑視、軽視や無視の行為行動が相手の心を傷つけることが多いのです。これが人権問題に発展していく事実があります。オバマ流に考えれば、それぞれの人たちが自分の持っている最高の能力、実力、良さを示す、発揮する。それが相手や社会に対して称賛、憧れ、尊敬までの内容を示すことが、差別意識を持たせないで済むことになるということです。そして、お互いが認め合うことが、差別意識を解消に近づけるといえます。私たちもこの考え方を少しでも取り入れていきたいと思えます。

しかし、現実には私たちはあらゆる差が生じる社会の中で生活しているのです。身長差、体力差、知力差、経済力差、生活力差…。これらの差によっても妬み、中傷、嫌がらせを生じさせている事実があるのです。私たちはこれらの差を認識し、対応して生きていかなければなりません。それを克服するには、絶えず人権感覚を鋭くしておくことが大切であり、そのためには、絶えず人権啓発と教育を受けて、自分の行為行動を見直していくことが大切だと思います。

それが、私たち人間としての義務と責任だと思います。



市民人権とおく

S H I M I N J I N K E N T O K U No.1

「市民人権とおく」では、市民の皆さんから人権について日ごろ感じている思いや考え、伝えたいエピソードなどを毎回ご紹介いたします。随時受け付けていますので、ぜひお寄せください。(形式は問いません) ※寄稿先は4ページ下欄に掲載



「子どもに大切なことを伝えていきたい」 (市内在住:43歳女性)

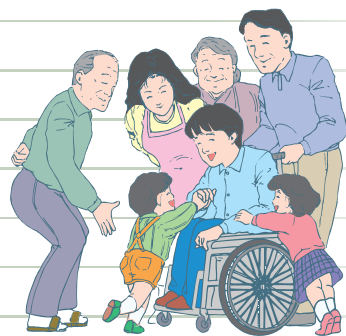
常日ごろ、親として2人の子どもの良い手本でありたいと思っています。ハンディキャップのある長男と外出すると、いろいろな場面や人に遭遇します。そのたびに我が身を振り返り、その思いを一層強くします。

2年前のお正月、神社でのことです。参道を進みいよいよ拝殿へ、というところに車イスにとつては“最大の敵”階段が…。辺りを見回してもスロープはない…。当時、中学生の息子はすでに大人と変わらない体格、しかも車イスは案外重いもので、息子と車イスを合わせると、ゆうに60kgはあります。2、3段とはいえ、負担は大きいです。

夫と私は2人で持ち上げることに決めました。私は手に持っていた荷物を次男に持たせ、車イスに手を掛けました。すると、「はいはい、手伝いますよ。」と背後から元気のいい男性の声、しかも、言い終わらないうちにその人の手は車イスに。強力な助っ人の登場で、私たちは「重い!」と感じることなく、また何よりも安全に車イスを持ち上げることができました。感謝を述べる私たちに、その方は笑顔で会釈され立ち去りました。男性の自然かつ迅速な行動は、つい忘れがちな人としての大切なことを気づかせてくれるものでした。

私はこれまで息子を通して多くの人との出会いがあり、たくさんのことを学びました。人は、やさしさに触れると心が温かくなり、前向きな気持ちが生まれることを知りました。受け身ばかりでなく、自分にも何かできることがあれば…。という気持ちが芽生えたことにも気付きました。ほんの些細なふれあいの中にも、幸せを感じることができ、人と人のつながりが広がることを強く願います。

『永遠に幸福でいたいなら 人のために生きよ』という、トルストイの言葉があります。私は、心に少しゆとりを持って、周りにも目を向け生きていきたい。そして、子どもたちに大切なことを伝えていきたいです。



今回投稿していただいたお話は、車イス生活の子どもとその家族が、普段の何気ない日常生活の中で体験する出来事の中で、人のやさしさや思いやりに触れ、自分自身を見つめ直し、人と人とのつながりを大切にしていきたいと強く感じ、その思いを子どもに伝えていきたいという内容のものでした。

日ごろの暮らしの中で、何もかもが当たり前過ぎていて考えるのではなく、1つ1つの出来事に目を向け、相手の心を知り、思いやりや感謝の心を持ち、そして、自ら行動できるよう、私たち一人ひとりが人権感覚を高めていきたいものです。



平成20年度 人権教育・啓発の取り組み

一部紹介

人権啓発広告塔を設置しました!

市は、市民が人権に関心を持ち、人権意識を高めることを目的に平成9年から毎年「人権啓発広告塔」を設置していますが、2月にイビデン(株)本社敷地内に16カ所目となる広告塔を新たに設置いたしました。

人権に対する取り組みは、企業においても公正採用選考や男女・外国人などの就労、セクシャル・ハラスメントの問題など企業の社会的責任(CSR)においても非常に重要な取り組みであり、市としても企業への啓発を推進しています。

貴社からは、こうした取り組みの趣旨にご賛同をいただき、設置場所にご協力をいただきました。設置場所は、養老鉄道「西大垣駅」の東にあります本社駐車場の入口です。



▲イビデン(株)本社に設置された人権啓発広告塔



人権・同和教育講演会を開催!

(大阪市立大池中学校PTAおやじバンドの演奏と講演)

市教育委員会は、日常生活の中で態度や行動につながるような人権感覚を養っていくことを目的とし、2月1日に墨俣さくら会館において人権・同和教育講演会を開催しました。講師に「大阪市立大池中学校PTAおやじバンド」の方々をお招きし、市民や市民団体をはじめ企業や行政・学校関係者など多くの方々に参加していただきました。

講師紹介:大阪市生野区は、区民の4人に1人が在日韓国・朝鮮人という街で、そこにある大池中学校は、韓国や朝鮮にルーツを持つ生徒の割合が8割近くになるそうです。04年度、PTA役員のみならず、在日の保護者が会長に立候補。しかし、「在日のPTA会長就任は前例がない」との理由で、役員選出が2学期までもつれ込み、結局在日側が譲歩し、立候補された方が副会長に就任することで事態が収拾しました。

この件を機に、PTA活動を進めていく中で、男性役員と教職員が時折、近くのお好み焼き屋で酒を飲みながら語り合いを始め、回を重ねるうちに互いに自分たちの思いを本音でぶつけあいながら交流が深まっています。そして、「大池中をどんな学校にしたいのか」との夢を語り合うようになります。

「おやじバンド」は、このときの当事者であるPTA役員・校長・教頭や教員らによって結成され、彼らは、国籍や仕事は違っても同じ青春を謳歌した音楽を通じて、学校や地域の中で心をつないでいきます。そして、06年度には、大池中学校60年の歴史の中で初めて、バンドメンバーである在日の方が本名を名乗ってPTA会長に選出されました。

こうした活動は、さらに広がりを見せ、差別のない社会にしていきたいという願いとともに、“おとなが楽しそうに生きていなければ、子どもも楽しいわけがない”というスローガンのもと、日本人と在日韓国・朝鮮人のメンバーが思いを1つにして、歌とメッセージに託し、その思いをより多くの人々にお届けしています。



▲心に訴えかけるおやじバンドの演奏

参加者の声

●おやじバンドの演奏ととても素晴らしい!講演会という形式でなく、トークを交えてバンドをする。皆さんの中にある差別をなくしようという心と数々の言葉が心に染みます。戦争や差別のない社会になることを願い、自分も少しずつ力になれる1人になりたいなあ、と思います。本日はとても良い機会を与えてくださりましてありがとうございます。

●大阪の元気なおっちゃんの熱く心優しい歌とトークにとっても感動しました。在日の方が本名を名乗ることへの障壁は、やはり今を生きる人々の理解不足だと感じます。本日の“チャンゴ”のように、差別を打ち消す力強い響き合いが広がることを願っています。「時間をつくって研修会に出て良かった」と本当に思える会でした。